

釧路湿原植生調査

1 調査実施の背景

植生は湿原生態系の基盤をなすものであり、今後自然再生事業を進めていく上では、詳細な植生情報が不可欠である。

これまでの釧路湿原での植生調査では、リモートセンシング技術を用いて大まかな植生区分は判明している。しかし、湿原への立入が困難なため、現地調査がままならない区域も多く残されており、釧路湿原全域を対象とした植物社会学的な研究レベルでの調査成果はまだ得られてない。

2 調査目的

釧路湿原の自然再生事業の一環として、これまで蓄積された様々な情報を整理しつつ、GIS等各種の新しい技術を組み合わせて効率的に環境を把握できる手法を検討するとともに、研究者による詳細な現地調査の実施から、植生判読結果の裏付けとなる群落組成データを得ることによって、国立公園内の湿原域でのより精度の高い植生図を作成することを目的とする。

3 調査対象域及び調査年度

釧路湿原国立公園区域内の湿原区域 約16,000ha

平成14年度～平成16年度(3ヶ年)

(図1:平成14年度植生図作成区域及び平成15年度調査対象地)

(図2:平成14年度 釧路湿原植生図)

4 長期的な作業計画

- ・空中写真判読による広域での植生把握と、研究者による現地での方形区調査による詳細確認を行って、縮尺1/25,000レベルの現況植生図を作成する。
- ・植生図は、群集単位までの区分とし、元データとなる方形区調査データ(最終的に約300区画分)については、群落レベルまでの整理を行う。
- ・植生調査と併せて、植物標本採集を実施する。
- ・長期的な植生変化を見るため、モニタリング調査が可能となるように一部で永久方形区の設置を検討する。
- ・調査を進めるに当たっては、調査手法の試行錯誤が必要となる。
調査方法及び調査計画の検討、現地調査実施、調査データの解析等については、学識経験者の指導、協力のもとで進める。

